

# 第12回 コンパス薬局藤沢 スキルアップ勉強会

2016.1.12 相原美穂

アストラゼネカ（株）

## ビデュリオン皮下注用2mgペン

### フォシーガ錠

担当：井上 剛さん

出席者：内科・沢先生 松下 空田 小瀬村 相原

「GLP-1受容体作動薬」ビデュリオン皮下注用2mgペンは、バイエッタ皮下注と同成分エキセナチドを含む持続性注射剤で、週1回の投与で血糖改善効果を発揮する薬剤である。

フォシーガ錠は糖尿病治療薬の中では新しい作用機序である「選択的SGLT2阻害剤」に分類される内服薬の1つで、2015年6月より投与期間制限が解除された。

#### I ビデュリオン

##### <効能効果>

##### 2型糖尿病

ただし、食事療法・運動療法に加えてSU剤、ビグアニド系薬剤及びチアゾリジン系薬剤による治療で十分な効果が得られない場合に限る。

##### <用法用量>

通常、成人にはエキセナチドとして、2mgを週1回、皮下注射する。

朝・夜などの使用時間帯は決まっておらず、ライフスタイルに合わせて時間帯設定が出来る。

バイエッタが1日2回であったのに比べると、使用負担感が軽減されている。

##### <使用方法>

専用懸濁用液で用事懸濁して用いる。針をセット後、80回（約2分）を目安に手のひらに軽くペンを打ち付けるようにタップし、塊がなくなるまで混和した後、皮下注射する。

ペンは1回使い切りタイプになっているため単位設定は必要ない。

##### <薬効>

GLP-1はインクレチン（消化管ホルモン）の1つで食事摂取により小腸下部から分泌される。作用は、①血糖依存性にインスリン分泌促進 ②グルカゴン分泌抑制 ③食欲抑制 ④食物の胃排出速度遅延 ⑤膵β細胞保護作用 である。

DPP-4による分解を受けにくいGLP-1受容体作動薬を皮下注射する事で、上記の作用を持続させる。

また、PLGポリマーのマイクロスペアで薬剤を内包し薬剤が緩やかに放出される徐放システムを持つため、週1回投与での持続効果が可能となっている。

#### <副作用>

GLP-1受容体作動薬で起こりやすいといわれる消化管障害（悪心・嘔吐）は徐放性製剤であるため比較的少ない。

対して、注射部位の硬結はマイクロスペア内に薬剤が留まる事により起こりやすい。通常、固まりは4-8週間で改善するとされている。

## II フォシーガ錠

#### <効能効果>

2型糖尿病

#### <用法用量>

1日1回 5mgを経口投与する。10mgまで増量可能。

#### <薬効>

近位尿細管内のSGLT2を選択的に阻害してグルコースの再吸収を抑制し、余剰なグルコースを尿中に排泄することで血糖降下作用を発揮する。このため、インスリン抵抗性やインスリン分泌能に依存することなく血糖降下させられる。

糖尿病ではSGLT2の活動が活発になりやすく負のスパイラルに陥っていることが多いが、薬の作用により約80%の患者さんで血糖降下と体重減少が同時に得られたというデータもある。

尿の排泄量が増えるため、利尿剤のような役割で血圧改善効果が見られる。今後、心血管イベントへの影響も期待されている。

#### <副作用>

口渇、頻尿、感染症が主である。

夏場はもちろん、冬も脱水に注意してペットボトルの持ち歩きを推奨する。

#### <考察>

ビデュリオンは、同効薬の注射剤トルリシティに比べると注射前に薬剤懸濁というひと手間が加わるので、患者さんへ使用方法の十分な説明が必要だと感じた。

また、同じような持続効果を持つ注射剤であっても、各薬剤がもつ独自の徐放システムが全く異なるという事が第10回、11回と今回の勉強会を経て学べた。放出形態の差からも、出やすい副作用や注意すべき体調変化が異なるのだという視点を持って、患者さんへの投薬にあたりたい。

フォシーガ錠では、心臓・高血圧治療を合わせて行っている糖尿病患者さんにおいては併用薬との相互作用のみならず、この薬の持つ心血管イベントへの影響を踏まえた説明も考慮したい。起こりうる体調変化をあらかじめ知っておくことも、薬の服用に対する不安感軽減につながる。

#### <Q & A>

Q：皮膚の硬結した部位に重ねて注射をしても問題ないか？

A：薬剤の吸収・血管への移行が悪くなるため十分な効果が得られなくなる場合がある。  
硬結部位への重ねた注射はしないこと。